

要約

「高校生が抱える“見えない貧困、食生活問題の解決に校内居場所カフェが果たす役割」

1931068 竹田莉奈（隈本ゼミ）

校内居場所カフェとは、いまから10年ほど前に始まった活動であり、家にも学校にも居場所がないと感じている生徒のために、いつ来てもいい、誰でも利用できる、くつろげる場所を、地域の大人たちが校舎内に作ろうというものである。

隈本ゼミでは、千葉県内初の校内居場所カフェとなる、県立市川工業高校定時制の「りりいふカフェ」の立ち上げと運営に参加し、2年間にわたって密着取材をしてきた。りりいふカフェでは、生徒たちに食品を持ち帰ってもらう食支援を行なっている。

2021年1月の定時制生徒に対するアンケートでは、1日3食食べられている生徒は全体の32%しかおらず、1日1食と答えた生徒も16%いた。ところがそうした「食の貧困」に直面している生徒たちは、そのことを人には知られたくないという思春期特有の思いがあり問題が顕在化しにくい。全国初の校内居場所カフェである大阪府立西成高校の「となりカフェ」への取材でも、そうした高校生たちの“見えない貧困”に対応するためには、居場所カフェを通じた「さりげない支援」が必要とされていることが判明した。

食支援を受けるため放課後わざわざ別の場所に出向くということに躊躇を感じる生徒たちも、居場所カフェは校内にあり、誰でも気軽に参加できる楽しい場所ということで参加に抵抗感がない。帰りに家族のために食品をもらって帰ることも自然な流れとなっている。

こうして校内居場所カフェというツールを使って実現する「さりげない食支援」が、食をめぐる高校生の“見えない貧困”に対する効果的な対応策である可能性があることがわかった。